



私は、今回の「高校生による海外エネルギー事情研修会」に参加して、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。

フランスとスウェーデン以外でも、事前研修での東北電力東通原子力発電所や日本原燃原子燃料サイクル施設を見学しました。また、出国前日にはフランス大使館とスウェーデン大使館を訪れ、貴重な話を聞くことができました。

研修前に1番不安だったのは、海外高校生との交流です。英語で高校生と交流できるかとても不安でした。交流日の前日に、施設見学の感想を英語で話す機会があったのですが、案の定、すぐに英語がでてこなくて、時間をもらっても簡単な英語で話すことしかできませんでした。情けなくて泣きたくなり、その日はホテルに帰着後、明日のために簡単なフレーズや話したいセリフを改めて予習しました。

そして当日、緊張と不安とで真っ青になりながらグリニャール高校に向かいました。しかし、その心配は杞憂でした。グリニャール高校の高校生と中庭で、卓球をしたり、好きなことを話したりすることで、あっさり打ち解けることができました。プレゼンテーションでは、それほど緊張することなく、笑顔で話せたり、原稿に書いてないセリフを話すことが出来たりと、終始リラックスしてディスカッションすることができました。

その後の文化交流と夕食では、稚拙な英語でしたが、ずっとフランスの高校生とお話していました。終了後の帰り道で日本人仲間と「楽しかったね！」「何かめっちゃくちゃだったけど、思っていたより英語で話せたね。通じたてね。会話してたね。」などといった会話をしました。最初に感じていた不安も消えていて、ものすごく楽しめたことに内心とても驚きました。そして同時に、もっと英語を勉強しなければという気持ちになりました。

---

施設見学では、フランスのラ・アーク再処理工場とスウェーデンのフォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設を見学しました。フランスでは使用済燃料をどのように再処理しているのか、スウェーデンでは放射性廃棄物はどのように保管・処分されるのか等について具体的に学ぶことができました。一般の人は入れない場所も見学させてもらい、とても貴重な経験をさせてもらいました。

そして、現地の高校生とのディスカッションでは、実際に現地の高校生とエネルギーについて話し合うことで様々なことが見えてきました。まず、フランスとスウェーデンの高校生のエネルギーへの意識が日本の高校生とは違うということです。一人ひとりがエネルギーへの関心があり、それぞれの意見を持っていました。フランスとスウェーデンでは学校で原子力発電について学ぶ機会があるということがわかりました。そして、学校では考え方に偏りがなく、原子力発電のポジティブな面もネガティブな面も客観的に教えてくれるそうです。

次に私が感じたことは、フランスでは原子力発電を使うより再生可能エネルギーを使うことを推している人が多かったということです。スウェーデンでも再生可能エネルギーを使うべきだという人がいました。理由は、原子力発電は放射性廃棄物が発生し、100%安全ではないからだと話していました。

エネルギー施設の見学や現地の高校生とのディスカッションを通して、私は今の日本には原子力発電が必要だと改めて思いました。フランスとスウェーデンでは再生可能エネルギーを推している人が多かったと言いましたが、それはフランスとスウェーデンの地だからこそ言えることと私は考えます。ヨーロッパはヨーロッパ全体がエネルギー・ネットワーク構築されており、両国ともヨーロッパの他の国から供給することができますが、エネルギー資源に乏しく、島国である日本で同様なことは難しいからです。現段階において、日本は原子力発電を活用していくしかないと改めて感じました。もちろんそれはあくまで消去法です。この先新たにもっと安全で安定供給・経済性・環境面で優れたものが発明されるかもしれません。それまでは、原子力発電を使うべきだと思います。

---

そして次に、今回の研修で学んだことは、日本の東日本大震災が世界に与えていた影響の大きさです。ラ・アーク再処理工場では福島第一原子力発電所の事故以来、安全対策を強化したと聞きました。フランスのグリニャール高校ではディスカッションの際、私たちに福島第一原子力発電所のことについての質問がいくつかありました。福島第一原子力発電所の事故のニュースを見て、原子力発電に対しての考えが変わったという人もいました。

私個人の提案として、日本でもエネルギーに関して何らかの形で学校教育に取り入れるべきだと思います。今回の研修で接してきたフランスとスウェーデンの人たちは、エネルギーに対する意識自体が日本と違うことがわかりました。日本ではマスメディアなどに左右される人が多いと感じます。それは今までに原子力発電について知る機会が少なかったからではないでしょうか。フランスとスウェーデンの高校生は学校であらゆる視点から原子力発電について詳しく学んだと聞きました。さらにフランスではフランス政府が国民に本当の情報や仕組みを伝え、賛成の人がいるのは、フランス政府の努力の結晶だと話していました。（これはフランス大使館で聞いたものです。）学校の授業以外にも国民に原子力発電について知ってもらう機会を増やすべきだと感じました。

また、これはスウェーデンで滞在したときの話なのですが、なるべく電気を使わない努力をするべきだ、という意見がありました。東日本大震災直後は、節電に力を入れていましたが、最近ではその言葉を聞くことが少なくなってきたように感じます。なので、原子力発電の正確な情報を伝えると同時に電力を使うことの責任を多くの人たちに伝えるべきだと思います。

最後に、一緒に参加した仲間、私をこの研修に参加させてくださった学校の先生や青森商工会議所の方々、そして家族に感謝します。

